

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393400128		
法人名	医療法人清友会		
事業所名	グループホームにこやか 天神		
所在地	愛知県犬山市字裏之門45番地		
自己評価作成日	平成28年1月21日	評価結果市町村受理日	平成28年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvosyoCd=2393400128-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成28年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

クリニック併設の施設なので、医療面での対応は充実している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、医療機関の建物内に開設されてあることで、日常的な医療面での支援が行われており、医師による受診や急変時の対応が行われていることもあり、利用者、家族にとっては安心して過ごすことができる体制でもある。母体医療機関は、長年にわたり地域の医療機関として開設されていることもあるため、地域の方にとっては馴染みのある医療機関として知られている。医療機関に馴染みのある方が利用者である場合もあり、交流の機会にもつながっている。重度の方への支援についても、母体の医療機関に専門の入院設備が整えられていることで、医療機関と連携した利用者の看取りを見据えた支援にも取り組んでいる。また、運営推進会議については、会議の席に母体医療機関の医師が出席していることで、ホームからの細かな運営面での報告の他にも医療面での情報交換にもつながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎週、月曜日朝礼にて理念の朗読を行っている。	ホーム理念については、スタッフルーム内への掲示が行われており、職員間で理念に関する思いを共有できるような取り組みも行われている。また、職員の心構えを作成しており、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	毎月一回近隣の保育園児に来所してもらい交流を図っている。	ホーム近くにある児童センターとの交流の機会があり、地域の方との交流にもつなげている。また、関連事業所にボランティアの方が訪問した際には、ホームからも利用者が参加しており、交流の機会につなげている。	地域の方にホームを知ってもらい、ホームの利用にもつながらるように、関連事業所とも連携した交流や地域貢献につながる活動の実現に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議にて話し合いを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	出来る限り行っている。	会議の際には、ホームでの様子を写真も活用しながら報告しており、出席者にホームへの理解を深めてもらっている。また、会議には母体医療機関の医師が出席しており、出席者との医療面での情報交換にもつなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議や電話等で連携を図っている。	市の担当部署との定期的及び随時の情報交換等に取り組んでおり、ホーム運営上の不明点や課題等の解決につながるよう取り組んでいる。また、市の介護相談員の訪問があり、情報交換につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	不穏等ある時以外は玄関の施錠は行っていない。	ホームは、身体拘束を行わない方針で利用者の支援に取り組んでいるが、ユニットの施錠については、状況に合わせて対応している。また、職員に研修の資料をつくってもらい取り組みを行っており、振り返りの機会につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	月一回の勉強会(職員による問題作成)を行い、虐待等の介護に関する知識、意識向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護は学習機会がなかったため、今後機会があれば活用したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	行えている。十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	行えている。声掛け等を行い意見、要望をお聞きしている。	今年度については、家族との定期的な交流会等の機会はつくられていないが、家族の来訪時には管理者による対応が行われている。また、意見や要望等については、関連医療機関の窓口でも受け付けている。なお、現状、ホーム便り等は行われていない。	ホームからの情報発信の取り組みは、家族との信頼関係を築くためにも必要である。定期的な便りの発行等、ホームでの新たな取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月一回のミーティングを行っている。会議や個人面接等を行い反映させている。	ホームでは、ユニット毎に職員会議が行われており、ユニットリーダーを中心にしながら、現場職員からの意見等の把握につなげている。また、法人の関連事業所との委員会を通じた活動もあり、事業所間の情報交換の機会もつくられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	あまりできていないと思う。努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	あまりできていないと思う。行えている。毎月、勉強会を行い日々向上するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	あまりできていないと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	不安の軽減や希望に近づけるよう、コミュニケーションを図り、寄り添える努力をしている。情報を共有しながら、本人との関わりの中で築けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	行えている。家族等の意見を聞き、努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	行えている。必要としていることを優先し支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一つ屋根の下に暮らし生活を共にする家族という意識を心掛けている。行えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	居室に写真や思い出の物を飾り、意識できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	努めているようにしている。面会に来られた時に感謝とまたお越し下さるよう声掛けを行っている。	母体の医療機関が以前より開設されていたこともあり、利用者の中には受診時に交流している方もいる。また、ホームでは、理美容については、近隣の美容院に出かけていることで、ホーム入居前からの馴染みの関係につながっている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクリエーションや会話をし、孤立しないように支援している。適度な距離を持ち見守り支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	あまりできていないと思う。お見掛けしたら声掛けを行っている。必要に応じ、フォローし相談等にもっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来る限り意向の把握に努めている。あまり出来ていないと思う。自宅へ行きたい…その想いを叶えてはあげられない気持ちを他に向けて頂ける様努めている。	職員は、担当制もモニタリング等で活用しながら利用者の把握につなげており、毎月ユニット毎に行われているカンファレンスで話し合い、情報の共有につなげている。また、利用者毎に申し送り事項をまとめていることで、日常的な共有にもつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	行えている。馴染みの暮らし方や生活歴に沿ってサービスが利用できるように心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人一人の生活状況を常に観察し、現状把握に努めている。日々の中での気付き等をスタッフで共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	あまりできていないと思う。	介護計画は基本6か月毎に見直されており、毎月のチェックを通じた、3か月毎のモニタリングが行われている。介護計画の職員への浸透については、定期的なカンファレンスが実施されなかったこともあり、充分に行われていない現状がある。	今年度より、定期的なカンファレンスを実施するようになったことで、介護計画の内容に関する職員への浸透に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人ケース記録を記入している。その他申し送り等で情報を共有し活かしている。あまりできていないと思う。行えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	状況やニーズに沿ってサービスに取り組んでいる。行えている。あまりできていないと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	支援できるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	行えている。月に2度往診があり、日々の状況を伝え、適切な医療を受けられるように支援している。	母体医療機関の医師による医療面での支援が受けられる関係でもあり、状態等に合わせた支援が行われている。また、ホーム管理者を通じて、医療機関の看護師との情報交換も行われており、他の医療機関への受診に関する情報提供等も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	行えている。分からない時は聞いています。看護師と24時間連絡が取れるようになっており、その都度、相談や対応の指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	出来る事を一生懸命行い、本人のしたい事に寄り添える様に支援したい。意向に添えるよう方針を決めて支援に取り組んでいる。	母体医療機関に重度の方の受け入れも可能な体制がつけられていることで、医療面で連携した対応が行われている。看護師との連携が行われていることで、夜勤職員へのフォロー等にもつながっている。また、職員への勉強会の機会もつけられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	勉強会等で急変等の対応は学んでいる。訓練等あれば積極的に参加し行っている。あまりできていないと思う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練を行い常に対応できるように努力する。あまりできていないと思う。	避難訓練については、今年度は十分な実施が出来なかった面があるが、管理者が防火管理者でもあるため、設備面での確認や通報方法の指導等が行われている。医療機関の中にホームが開設されていることで、関係者との連携にも取り組んでいる。	ホームが建物の3階に開設されていることもあるため、より実践的な避難訓練の実施に期待したい。また、ホーム内における備蓄品の確保にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	日々、心掛けて対応している。行えている。ある程度はできていると思う。一人ひとりを傷つけないように気をつけてはいます。	職員による利用者への対応については、管理者により注意喚起の機会がつけられており、気になった際等には振り返りの機会にも努めている。また、職員が独自に事例を考えながら、利用者に対応に関する勉強会の機会がつけられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	行えている。あまりできていないと思う。少しでも自己決定ができる場を増やせるよう、会話やコミュニケーションに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	行えている。自由に行動できるように行っている。無理のないように自分のペースでいただいています。あまりできていないと思う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	着る服は自分で選び化粧をしている方もいる。衣類が汚れていたら、その都度替えている。声掛けしながら服等選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食器洗いや食器拭きを会話をしながら楽しんでいる。テーブル拭きやテーブル上のゴミ捨てなどはされています。	昼食は医療機関の厨房から提供されているが、朝食と夕食はホーム内で調理を行っていることで、夕食のメニューの中で、行事食等の取り組みが行われている。なお、調理や片付け等に際しての利用者の参加は、限定されているのが現状である。	感染症等の問題があり、食事の場での利用者の参加は行われていないが、可能な範囲で、利用者が食事の準備や片付け等に参加する場面が増えることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	体調や個人に応じて、個別に支援している。減塩のだし、みそを使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	自立している方以外は介助で行い、口腔ケアを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェックをし、排泄パターンを把握している。体調タイミングに気を付け行っている。	ユニット毎で職員間で検討しながら、独自の記録用紙を作成し、利用者の排泄状態の記録を残し、職員間の情報の共有につなげている。また、医療面での連携も行われており、その方に合わせた排泄につながるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分量をチェックし、便秘になりやすい方へは水分摂取を促している。食事内容を工夫し、便通によい物を意識し提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	本人の希望に応じる努力を行っている。曜日は個々に職員が決めている。時間帯は決まっていないので、体調に応じて入浴されている。季節に合わせた入浴剤を使用している。	入浴は週4回のうちの2回入浴するように実施している。浴室の設備がユニットで異なっており、重度の方については、特殊浴槽のあるユニットでの入浴も行われている。また、入浴剤の使用や季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯等の取り組みも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	空調に配慮し、個室で安心して眠れるように支援している。不安そうな時は少しお話をする。入眠時間は違うので、フロアでテレビを見て過ごされたり、居室で過ごされる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤管理は常に見られるようにファイルにとじてあり、用法、用量、注意点を理解し、服用を支援している。服薬時は少し間を空け、落ち着いて読み上げ確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	出来る事は行って頂き、互いに感謝し、声掛けを行っている。レクリエーションや散歩などで気分転換を図っている。役割を持って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご家族と出掛けられる方はいるが、外出レクは行っていない。出来るだけ希望に添える様行っている。	ホームからの日常的な外出の機会は限られた範囲となっているが、近隣への散歩等の機会はつくられておる。市内の神社への外出行事は行われているが、外出支援ができる職員が限られている現状もある。	現状、自動車を運転できる職員が限られていることで、ホームからの外出の機会が少なくなっている。関連事業所との連携等も含めて、利用者の外出の機会が増える取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現金は利用者は所持していない。預かり金という名目で預かり、必要時に使えるようになっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望に応じたいが要望があまりない。本人の希望にそえる様に行えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を取り入れた空間作りを行っている。毎日、必ず掃除を行い、清潔が保てるよう努めている。季節の花などもテーブルに飾っている。	ホームのユニットの構造はそれぞれで異なっており、リビング内における利用者への対応についてもユニットで異なっている。なお、リビングの壁には季節に合わせた飾り付け等の雰囲気づくりについては、ユニットで共通して行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	全室個室。共用フロアがあり、そこに座りお話しされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家具やはし、湯のみ食器など使い慣れた物や好みの物を使用している。本人が気に入った物、普段使っている物を持ってみえている。	居室内のキャビネットや収納スペース等の設備については、ユニットや居室によって異なっており、居室や利用者の状況等に合わせた居室づくりが行われている。利用者により、家族の写真を飾ったり、趣味の本等の持ち込みが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	目配り、気配りにて、穏やかに生活して頂ける様努めている。安全に暮らせるように努めている。		